



平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月5日

上場取引所 東

上場会社名 ヨネックス株式会社

コード番号 7906 URL <http://www.yonex.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 米山 勉

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役

(氏名) 連下 千歳

TEL 03-3839-7112

四半期報告書提出予定日 平成27年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	35,312	11.0	1,514	39.3	1,891	43.8	1,298	113.0
26年3月期第3四半期	31,802	12.2	1,086	106.4	1,315	100.0	609	79.8

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 1,339百万円 (46.4%) 26年3月期第3四半期 915百万円 (153.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	59.86	59.76
26年3月期第3四半期	28.11	—

(注) 第1四半期連結会計期間より表示方法の変更を行っております。26年3月期第3四半期についても当該表示方法の変更を反映した組み替え後の数値及び対前年同四半期増減率を記載しております。この変更により、売上高及び営業利益を変更しておりますが、経常利益及び四半期純利益の変更はありません。詳細は、添付資料P.4「2. サマリー情報(注記事項)に関する(2)追加情報」をご覧ください。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	40,726	30,718	75.4
26年3月期	39,841	29,734	74.6

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 30,690百万円 26年3月期 29,704百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	7.50	—	7.50	15.00
27年3月期	—	10.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	7.50	17.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

27年3月期 中間配当10円00銭の内訳 普通配当7円50銭 特別配当2円50銭

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	46,400	7.5	2,300	17.7	2,400	12.2	1,600	39.9	73.73

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 第1四半期連結会計期間より表示方法の変更を行っております。増減率については、当該表示方法の変更を反映した組替え後の前年同期数値を用いて算出しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期3Q	23,405,200 株	26年3月期	23,405,200 株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	1,700,315 株	26年3月期	1,707,315 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期3Q	21,699,785 株	26年3月期3Q	21,697,885 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を実施しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

業績予想等の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(2) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米国の内需を軸とした好循環に支えられ緩やかな回復が続いているものの、原油価格下落による資源国経済の減速や中国の高成長から安定成長への移行、ユーロ圏周縁国の不良債権問題等により景気の減速感が強まりました。

スポーツ用品業界においては、各カテゴリーにおいて新しいシーズンを控えた、選手、体制、用具等の話題が多く提供され活況が伝えられています。用品販売の面では、需給バランスの混乱は根強いものの、消費マインドは改善の兆しが見えてまいりました。

一方、スポーツ施設事業は、競技人口の伸び悩みや利用料金の低下等構造的な不安を抱えており、さらには天候不順等にも翻弄され低迷が続いております。

このような経営環境の中、当社グループは新素材・新機能の開発に注力し、これら先進技術と斬新なデザインを搭載した製・商品を順次マーケットへ投入してまいりました。また、国内外の契約選手の活躍に連動した広告宣伝活動やユーザーとの触れ合いによる直接的な販売促進活動を強化し、ヨネックスブランドの浸透と売上の増大を図ってまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における連結売上高は主力のバドミントン用品の好調により353億12百万円(前年同四半期比11.0%増)と増加しました。広告宣伝費他経費の効率・効果を見直し、要所に積極的に費用を投じた結果、営業利益は15億14百万円(前年同四半期比39.3%増)、営業外損益においては円安による為替差益が増大し、経常利益は18億91百万円(前年同四半期比43.8%増)、前年同四半期に比べ法人税等の負担率が低下したことにより、四半期純利益は12億98百万円(前年同四半期比113.0%増)と増加しました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① [スポーツ用品事業]

イ. [日本]

日本経済は、政府の金融・財政政策の効果により、企業の設備投資や雇用情勢に改善の兆しが見られる一方、円安による輸入物価の上昇等個人消費の回復は弱含んでおります。

当社では、各種目における契約選手の活躍やテニス熱の再燃を好機と捉え、積極的な広告宣伝活動を展開しました。

バドミントンでは、トマス杯・ユーパー杯での日本代表選手の活躍を宣伝活動の柱に据え、主力となるバドミントン製・商品力の強化に取り組み、選手層・愛好者層へ一層の販促活動に注力いたしました。

テニスでは、契約選手の活躍に連動した販売戦略のもと、新開発の高性能ラケットを市場に投入し、好調を維持するソフトテニスラケットとともに売上に貢献いたしました。

ゴルフでは、市場の縮小に対して店頭在庫の適正化を図る一方で、国内生産の強みを生かした販売戦術を展開しました。

この結果、売上高は305億26百万円(前年同四半期比10.4%増)、営業利益は9億72百万円(前年同四半期比28.8%増)となりました。

ロ. [北米]

北米経済は、緩和的な金融環境のもと、内需を軸とした好循環が強まり回復が持続しています。

北米販売子会社では、バドミントン用品の売上が大幅に伸張し、テニス用品も復調傾向に転じたため、業績は改善されました。

この結果、売上高は12億21百万円(前年同四半期比18.6%増)、営業利益は1億8百万円(前年同四半期比79.5%増)となりました。

ハ. [ヨーロッパ]

ヨーロッパ経済は、過剰債務等の構造問題を抱える中で、ロシア経済の減速がユーロ圏まで波及し景気減速感が強まりました。

ヨーロッパ販売子会社では、契約選手の活躍と連動してバドミントン用品、テニス用品の販売に注力した結果、業績は好転しております。

この結果、売上高は18億1百万円(前年同四半期比20.4%増)、営業利益は74百万円(前年同四半期比3639.2%増)となりました。

ニ. [アジア]

アジア経済は、中国の高成長が安定成長へと移行しましたが、ASEAN経済やインド経済は堅調でペースは低めながら成長局面は維持されております。

台湾子会社における国内販売は、バドミントン用品全般の売上が堅調に推移しております。また、台湾で製造するバドミントンラケットの輸出も、製品の品質・デザイン性の向上に努めたことから増加傾向を維持しております。一方、アジアセグメントに及ぼす影響は軽微であります。中国ゴルフ販売子会社では、ゴルフ用品市場の停滞や競合各社との価格競争から業績は低迷しました。

この結果、売上高は13億45百万円（前年同四半期比11.5%増）、営業利益は2億66百万円（前年同四半期比34.6%増）となりました。

これらの結果、各地域セグメントを合計したスポーツ用品事業の売上高は348億94百万円（前年同四半期比11.2%増）、営業利益は14億21百万円（前年同四半期比40.0%増）となりました。

② [スポーツ施設事業]

スポーツ施設事業の中核をなすヨネックスカントリークラブでは、日本海側では稀有なトーナメントコースとしてのコースコンディションを良好に維持し入場者数増加を図りましたが、消費単価の下降傾向や例年より早い降雪等から売上は停滞しております。

この結果、スポーツ施設事業の売上高は4億18百万円（前年同四半期比2.8%減）、営業利益は48百万円（前年同四半期比6.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、407億26百万円となり、前連結会計年度末に比べて8億85百万円の増加となりました。その主な要因は、電子記録債権と建設仮勘定の増加によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の負債につきましては、100億8百万円となり、前連結会計年度末に比べて99百万円の減少となりました。その主な要因は、買掛金の増加、未払法人税等の減少によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産につきましては、307億18百万円となり、前連結会計年度末に比べて9億84百万円の増加となりました。その主な要因は、利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績は、当社の主力であるバドミントン用品の好調に牽引され、概ね平成26年11月4日に変更・公表しました通期の業績予想に準じて推移しております。今後も当社グループを取り巻く環境は予断を許さない状況が続くものと思われませんが、現在の好調な面を維持した上で、さらなる業績の改善に向けた施策を講じ予想業績の達成を目指してまいります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（退職給付に関する会計基準等の適用）

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が30,915千円減少し、利益剰余金が19,940千円増加しております。なお、当第3四半期連結累計期間の損益及びセグメント情報に与える影響は軽微であります。

(2) 追加情報

（表示方法の変更）

従来、「営業外収益」にて計上していた「受取ロイヤリティー」については、第1四半期連結会計期間より、「売上高」に含めて計上する方法に変更しております。

これは、国内・海外販売店におけるヨネックスブランド商品の製造・販売高の増加に伴い、商標のライセンス供与等の対価としての受取ロイヤリティーの金額的重要性が今後さらに高まることが予想されるため、ロイヤリティー戦略の見直しを契機に、当社の営業活動の成果をより適切に表示するために行ったものであります。

この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書における「受取ロイヤリティー」242,638千円を「売上高」に組替えております。

なお、セグメント情報に与える影響については、当該箇所に記載しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,832,329	6,851,862
受取手形及び売掛金	10,447,870	10,616,849
商品及び製品	3,308,224	3,260,778
仕掛品	920,579	1,325,235
原材料及び貯蔵品	817,385	1,081,609
繰延税金資産	438,588	233,608
その他	1,399,076	2,223,615
貸倒引当金	△56,556	△66,766
流動資産合計	25,107,498	25,526,792
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,801,653	2,843,368
土地	7,556,510	7,562,130
その他(純額)	1,851,742	2,551,134
有形固定資産合計	12,209,906	12,956,634
無形固定資産	918,565	713,543
投資その他の資産		
投資有価証券	118,388	112,529
長期預金	500,000	500,000
繰延税金資産	815,169	714,900
その他	179,868	205,973
貸倒引当金	△7,543	△3,402
投資その他の資産合計	1,605,882	1,530,000
固定資産合計	14,734,354	15,200,178
資産合計	39,841,852	40,726,970

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,575,886	2,875,253
未払金	1,105,162	1,344,374
短期借入金	15,247	80,884
未払法人税等	556,629	121,472
未払消費税等	66,461	12,125
賞与引当金	581,373	206,010
設備関係支払手形	2,859	—
その他	620,576	922,784
流動負債合計	5,524,197	5,562,904
固定負債		
退職給付に係る負債	2,543,970	2,454,831
役員退職慰労引当金	167,105	183,145
長期預り保証金	1,834,331	1,773,080
その他	38,236	34,412
固定負債合計	4,583,643	4,445,468
負債合計	10,107,841	10,008,373
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,706,600	4,706,600
資本剰余金	7,483,439	7,484,103
利益剰余金	19,050,924	19,990,000
自己株式	△1,292,897	△1,287,596
株主資本合計	29,948,066	30,893,107
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,181	5,402
為替換算調整勘定	△64,501	△42,836
退職給付に係る調整累計額	△188,013	△165,105
その他の包括利益累計額合計	△243,333	△202,539
新株予約権	29,278	28,028
純資産合計	29,734,010	30,718,597
負債純資産合計	39,841,852	40,726,970

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	31,802,025	35,312,904
売上原価	19,583,330	21,518,822
売上総利益	12,218,694	13,794,081
販売費及び一般管理費	11,132,108	12,280,013
営業利益	1,086,586	1,514,068
営業外収益		
受取利息	6,609	6,403
受取賃貸料	9,117	9,560
為替差益	221,670	364,424
海難事故に係る受取保険金	30,683	—
その他	23,558	23,295
営業外収益合計	291,639	403,685
営業外費用		
支払利息	17,558	14,109
売上割引	12,097	12,343
海難事故による損失	25,618	—
その他	7,496	205
営業外費用合計	62,770	26,658
経常利益	1,315,455	1,891,095
特別利益		
新株予約権戻入益	—	156
特別利益合計	—	156
特別損失		
災害による損失	185,296	—
特別損失合計	185,296	—
税金等調整前四半期純利益	1,130,159	1,891,251
法人税、住民税及び事業税	378,745	310,457
法人税等調整額	141,494	281,925
法人税等合計	520,239	592,382
少数株主損益調整前四半期純利益	609,919	1,298,868
四半期純利益	609,919	1,298,868

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	609,919	1,298,868
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,342	△3,779
為替換算調整勘定	300,945	21,665
退職給付に係る調整額	—	22,908
その他の包括利益合計	305,287	40,794
四半期包括利益	915,206	1,339,663
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	915,206	1,339,663
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	スポーツ用品事業					スポーツ 施設事業			
	日本	北米	ヨーロッパ	アジア	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	27,638,736	1,029,658	1,496,528	1,207,006	31,371,930	430,095	31,802,025	-	31,802,025
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	2,113,972	421	2,988	2,574,179	4,691,561	20,899	4,712,461	△4,712,461	-
計	29,752,709	1,030,080	1,499,516	3,781,185	36,063,491	450,994	36,514,486	△4,712,461	31,802,025
セグメント利益	755,079	60,256	1,992	197,911	1,015,241	45,550	1,060,791	25,794	1,086,586

- (注) 1. セグメント利益の調整額25,794千円は、セグメント間取引消去であります。
 2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
 3. 「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)追加情報」に記載のとおり、「受取ロイヤリティー」については、第1四半期連結会計期間より、「売上高」に含めて計上する方法に変更しております。この結果、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報について必要な組替えを行っており、スポーツ用品事業(日本)において、外部顧客への売上高が242,638千円、セグメント間の内部売上高又は振替高が13,642千円及びセグメント利益が256,280千円増加しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	スポーツ用品事業					スポーツ 施設事業			
	日本	北米	ヨーロッパ	アジア	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	30,526,592	1,221,300	1,801,598	1,345,397	34,894,888	418,015	35,312,904	-	35,312,904
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	2,371,337	348	4,154	2,836,602	5,212,443	21,477	5,233,920	△5,233,920	-
計	32,897,930	1,221,648	1,805,752	4,182,000	40,107,331	439,493	40,546,824	△5,233,920	35,312,904
セグメント利益	972,393	108,187	74,511	266,388	1,421,481	48,669	1,470,150	43,917	1,514,068

- (注) 1. セグメント利益の調整額43,917千円は、セグメント間取引消去であります。
 2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。